

コンサルタン® 注射液

CONSULTAN® INJECTION

性腺刺激ホルモン放出ホルモン製剤

コンサルタン® 注射液

CONSULTAN® INJECTION

コンサルタン® 注射液の特徴



下垂体前葉に作用して、黄体形成ホルモン(LH)及び卵巣刺激ホルモン(FSH)の放出を促します。



優れた排卵誘起活性を示し、卵巣のう腫、排卵障害及び卵巣静止の治療、排卵促進に有効です。



分子量が極めて小さいので、抗体産生されにくく、反復投与時の有効性と安全性が確保されます。



吸収・排泄が極めて速やかで、休薬期間はありません。多頭数に使用しやすい10mLバイアル包装です。

牛の繁殖効率改善に

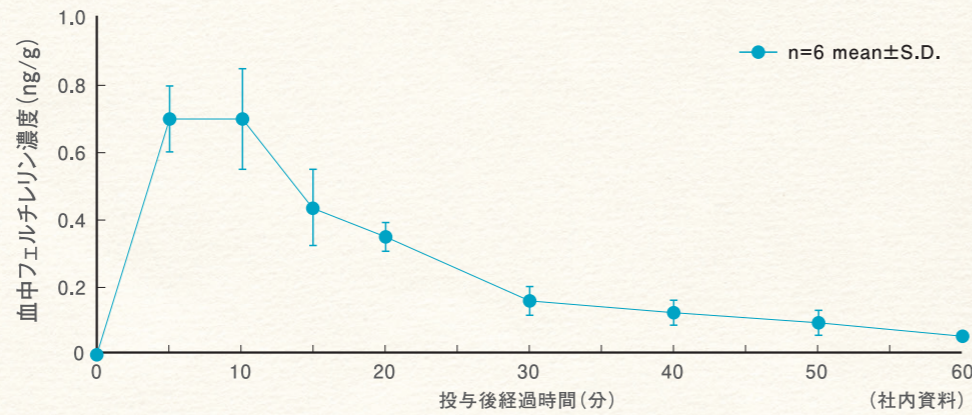


成分及び分量	有効成分	フェルチレリン酢酸塩	<ul style="list-style-type: none"> ・本剤は使用期限までに使用すること。 ・バイアル使用時には、ゴム栓をエタノール消毒綿等でよく清拭すること。 ・小児の手の届かないところに保管すること。 ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
	分量	1mL中50µg (フェルチレリンとして47.5µg)	
効果又は効果	牛：卵巣のう腫、排卵障害、卵巣静止の治療及び排卵促進		<p>2. 使用に際して気を付けること (使用者に対する注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。 <p>(牛に関する注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。 ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
用法及び用量	1回1頭当たりフェルチレリン酢酸塩として、下記の量を筋肉内注射する。 100~200µg		<p>(薬物動態)</p> <p>フェルチレリン酢酸塩を牛に0.7µg/kgの用量で単回筋肉内投与した結果、AUCt、Cmax及びtmaxの値は各々15.66±2.82 ng・min/g、0.74±0.11ng/g及び7.9±2.6minであった。</p> <p>(薬効薬理)</p> <p>フェルチレリン酢酸塩を成牛に100~200µg/頭の用量で筋肉内投与すると、血中LH濃度が上昇し、投与後2時間前後をピークとして7時間前後で基底値に復する。</p>
使用上の注意	<p>(基本的事項)</p> <p>1. 守らなければならないこと (一般的注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。 ・本剤は効能・効果において定められた目的のみを使用すること。 ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。 <p>(取扱い及び廃棄のための注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本剤を分割投与する場合は、速やかに使用すること。 ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。 ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないよう注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。 ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。 ・注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。 		
	包装	10mL×5(バイアル)	
	貯法	室温保存	
使用期限	3年		

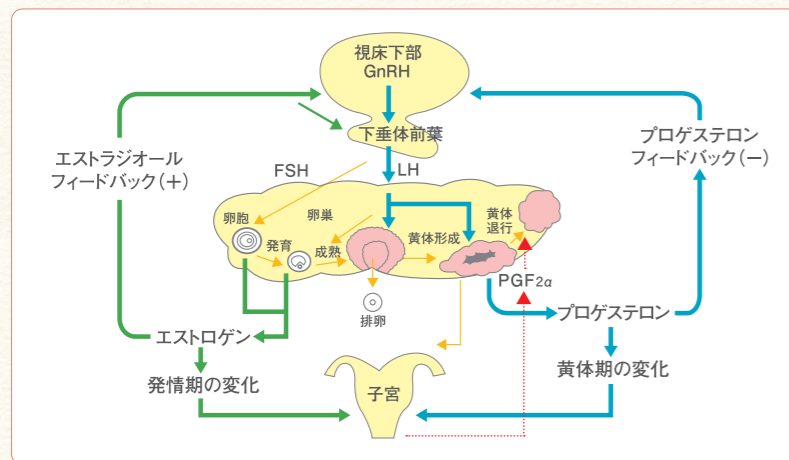


○ コンサルタン注射液投与後の血中フェルチレリン濃度 (LC/MS/MS法にて未変化体を測定)

本剤投与後の牛血中フェルチレリン濃度は、投与後5～10分で最高濃度に達し、速やかに減少します。



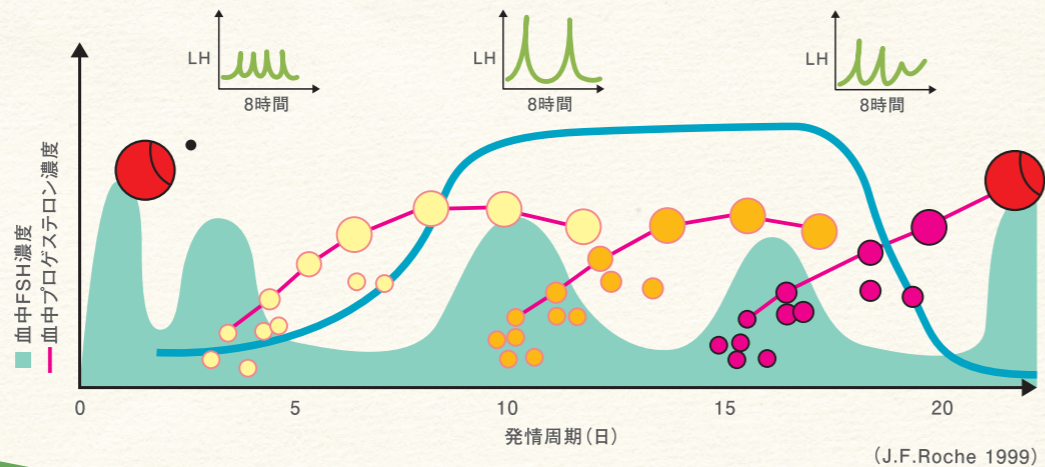
○ 繁殖機能のホルモンコントロール (模式図)



- ① 繁殖機能は視床下部-下垂体-性腺軸を中心に営まれています。
- ② 視床下部から分泌されるGnRHが下垂体前葉に作用して、FSH及びLHの分泌を促進します。
- ③ FSH及びLHが性腺(卵巢)に働いてエストロゲン及びプロゲステロンの合成、放出を促進します。
- ④ エストロゲン及びプロゲステロンは子宮等の副生殖器に働きその機能を調節すると共に、更に上位の下垂体、視床下部に働きフィードバック作用を現します。

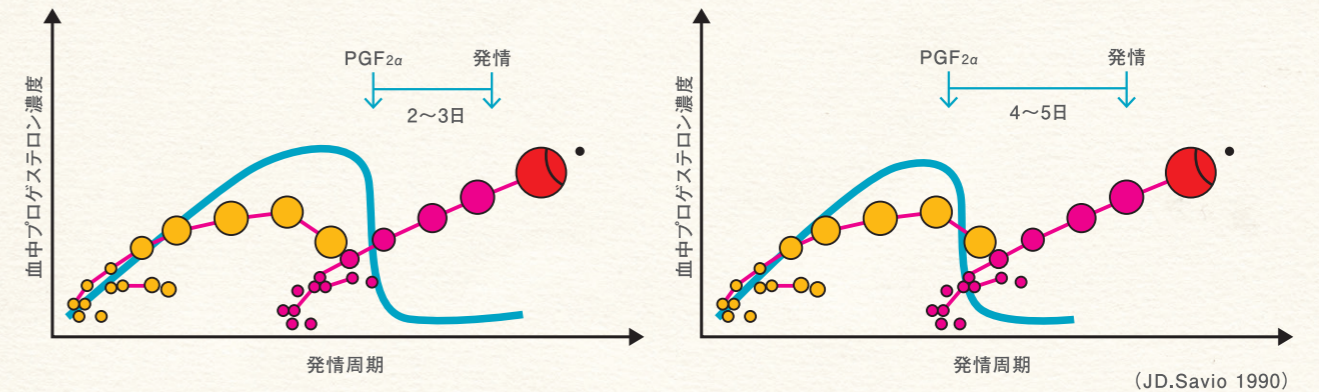
○ 牛の発情周期における卵胞発育ウェーブ

牛の発情周期において2～3回の周期的なFSHの増加に伴い、連続した卵胞発育ウェーブが出現します。



○ プロスタグランジン (PG) F_{2α} による発情同期化の限界

PGF_{2α} 投与後黄体が急速に退行するにも係らず、投与時の卵胞発育ウェーブのステージにより発情開始時期がばらつくことがあります。



○ GnRHとPGF_{2α} による排卵の同期化 -GPGプロトコール-

卵胞発育ウェーブのステージが制御されていない牛では、GnRHを用いることにより新しい卵胞発育ウェーブを開始させ、卵胞発育ウェーブを同期化させることができます。更にPGF_{2α}投与後に第2回目のGnRHを投与することにより、主席卵胞が排卵し定時人工受精(AI)が可能となります。

